

千里ニュータウンはこんなまち

まちびらき50年を迎えた 日本最初の大規模ニュータウン

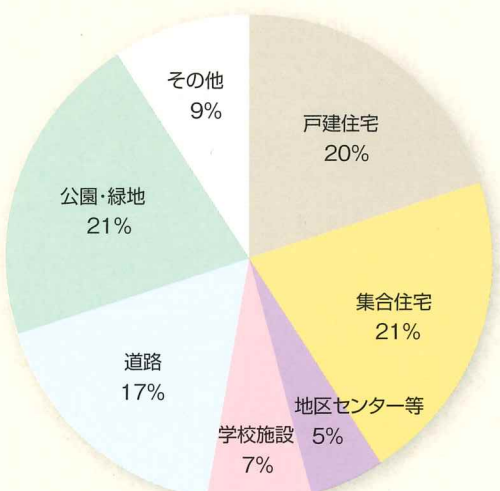
千里ニュータウンは、豊中市・吹田市に跨る千里丘陵に開発された日本最初の大規模ニュータウンです。開発面積は約1,160ha、計画人口は150,000人として計画されました。

昭和37年(1962年)の初入居から50年を迎え、住宅の建替えや千里中央など地区センターの再整備が進むとともに、さまざまな市民活動が活発に展開されています。

- 開発面積 1,160ha
- 計画人口 150,000人
- 住宅建設計画(当初) 37,330戸
- 市域別規模 吹田市域(791ha、約10万人)
豊中市域(369ha、約5万人)

豊かな公共空間で構成される 千里ニュータウン

千里ニュータウンは、全体面積約1,160haのうち、道路、公園緑地といった公共施設用地が約40%とたいへん多く、ゆとりある空間、緑豊かなニュータウンを特徴づけています。また、住宅地は約41%を占めており、戸建て住宅地と集合住宅地はほぼ同じ規模となっています。



しんせんりにしまち 新千里西町

- 昭和43年(1968年)まちびらき
- 84ha/7,736人/3,228世帯(H24)

千里中央地区センターの西半分を含み、千里ニュータウンでは珍しいオフィス街があります。彫刻が配置されたオフィス街のモダンな顔と、万葉集にうたわれた島熊山の緑のあいだで、コンパクトな中に対照的な要素が詰まっています。この住区も千里中央に近いので建替再生が早く進み、若い家族が増えてきました。

K住区

しんせんりきたまち 新千里北町

- 昭和41年(1966年)まちびらき
- 97ha/7,277人/3,461世帯(H24)

豊中市側で最初に開発された住区。吹田市側は開発前の地名や風物をおこむように名づけられていますが、豊中市側はモダンなイメージが強調された名前になっています。その中で榎ノ木公園には、開発前からの地名が使われています。この北町には千里ニュータウンで一番標高が高い地点があり、ニュータウン北部への配水の拠点になっています。

I住区

あおやまだい 青山台

- 昭和40年(1965年)まちびらき
- 97ha/6,688人/3,218世帯(H24)

郊外の住宅地で「青山」はよくある名前ですが、この青山は比較的高台だったからとも、清水がわいていてそこからサングイズを外したのだとも、町名の中に旧の大字名である「やまだ」を隠したのだとも、いろいろな説があります。北千里駅から北西に広がる斜面の団地群は圧巻で、見晴らしのいい場所が多いのもこの住区の自慢です。

F住区

ふじしろだい 藤白台

- 昭和39年(1964年)まちびらき
- 139ha/7,462人/3,344世帯(H24)

千里ニュータウン最大の住区。広大な千里北公園を含み、南北2.4kmの長い町です。阪大キャンパスや万博記念公園とも隣接しています。町名の由来は旧小字名の藤白(とうじろ)を読み替えたものですが、さかのぼれば熊野信仰とゆかりがあるという説も。和歌山県海南市には同じ藤白(ふじしろ)という地名があります。

G住区

しんせんりみなみまち 新千里南町

- 昭和43年(1968年)まちびらき
- 99ha/9,838人/4,524世帯(H24)

佐竹台から始まった千里ニュータウンの開発はほぼ逆時計回りに進み、最後に開発されたのがこの住区です。新御堂筋の西に沿って南北に細長い形をしています。新御堂筋は千里ニュータウンと万博会場へのメインラインとして建設され、御堂筋のイメージを引き継いで街路樹はイチョウ。南町も幹線道路の街路樹はイチョウで、秋は町中が黄色にそまります。

L住区

しんせんりひがしまち 新千里東町

- 昭和41年(1966年)まちびらき
- 98ha/7,862人/3,914世帯(H24)

千里中央地区センターの東半分、千里中央公園を含み、12住区の中で唯一、全部が集合住宅で構成されています。公団住宅の一部は、昭和45年(1970年)の万博当時、外国人スタッフの宿舎として使われました。ニュータウンの中心にありながら、東町公園には深い竹林が残され、住民グループによって手入れがされています。

J住区

ふるえだい 古江台

- 昭和39年(1964年)まちびらき
- 120ha/9,722人/4,443世帯(H24)

千里ニュータウンの中で唯一、開発前に10戸弱の旧集落があった住区。「古江」という名前は旧集落の名前をそのままいただいています。北地区で最初に開発されました。六丁目の大阪市立弘済院はニュータウン開発前からここにあったもので、正確にはニュータウン外です。はぎのき公園には旧集落住民による古江稲荷が今もまつられています。

H住区

つくもだい 津雲台

- 昭和38年(1963年)まちびらき
- 125ha/8,420人/3,778世帯(H24)

南地区の中心にあり、南地区センターや千里南公園など、にぎわうポイントがたくさんあります。ロータリーが2つもあって、南公園を分断しないため阪急で唯一の山岳トンネル「千里トンネル」もあります。北部の七丁目には、電話局、自動車工場など、町に1つは必要なサービス施設が集められました。町名の由来は、旧小字の九十九(つくも)から。

A住区

ももやまだい 桃山台

- 昭和42年(1967年)まちびらき
- 79ha/8,075人/3,647世帯(H24)

タケノコと並ぶ千里丘陵のかつての名産・モモにちなんで名づけられました。春日につらなる一帯は桃の里であったと言われています。12住区の中で唯一、住区の名前がついた鉄道の駅があり、千里ニュータウンの中で最も速く大阪市内にアクセスできる一角です。桃山台駅は吹田市と豊中市の境界線上に位置しています。

D住区

たけみだい 竹見台

- 昭和42年(1967年)まちびらき
- 53ha/7,162人/3,736世帯(H24)

千里丘陵の名産、竹にちなんで命名。吹田市側では一番後期にあたる桃山台、竹見台では、旧の小字名から名前を拾うことはせず、千里丘陵のイメージから町名が決められました。12住区の中で一番小さな面積ですが、南千里駅に面した高層スターハウスは、千里ニュータウン玄関口のシンボリックな景観となっています。団地マニアにも人気の団地です。

E住区

さたけだい 佐竹台

- 昭和37年(1962年)まちびらき
- 87ha/8,215人/3,577世帯(H24)

千里ニュータウンで最初に住民が入った住区。日本のニュータウンのパイオニアの地です。町名の由来はここが佐井寺の一部だったことと、千里名物の竹を合わせた合成地名です。一番古いため、団地建替などの再生も吹田市側では一番早く始まりました。とりわけ大きく育った並木道に、初期からの住民と若い住民の行きかう姿が見られます。

C住区

たかのだい 高野台

- 昭和38年(1963年)まちびらき
- 94ha/5,515人/2,536世帯(H24)

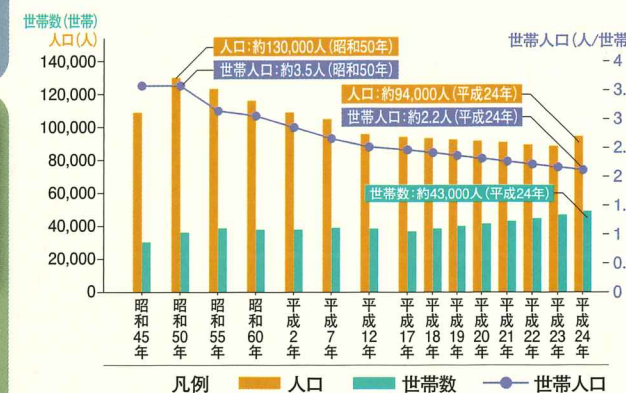
佐竹台に続く2番目の住区。全体が南斜面になっていて、町名の由来は旧小字名「上高町」「下高町」に野原のイメージを加えてアレンジしたもの。今は周辺緑地の一部になっている高町池周辺には、ヒメボタルもとびかいます。団地の真ん中にある南千里市民プールの旧称「大和谷(やまとだに)プール」は、やはり旧の小字名からとったものでした。

B住区

住民が増え始めた 千里ニュータウン

人口は昭和50年(1975年)の約13万人をピークに減少傾向が続き、近年では9万人を下回っていました。しかしながら、近年の集合住宅の建て替えに伴って人口と世帯数の増加がみられるようになり、平成24年(2012年)には人口約94,000人、世帯数約43,000世帯まで増加しています。

1世帯あたりの人口は、昭和50年に約3.5人/世帯ありましたが、平成24年には約2.2人/世帯まで減少しています。



モノレールの利用者が伸びている 千里ニュータウン

千里中央、南千里、北千里の3つの地区センターにおける鉄道の1日あたりの利用者は、北大阪急行千里中央駅が約85,000人と最も多くなっています。

近年では、モノレール千里中央駅の利用者が増えてきており、平成22年(2010年)では約33,000人となっています。南千里駅や北千里駅では利用者が減少する傾向がみられます。

